

気持ちを一つに緑化活動を行なう

「砂漠を緑に！」第14次隊の取り組み

ドコモ本部

ドコモ本部

〒107-0052
東京都港区赤坂2-4-5
国際赤坂ビル19F
TEL 03-3582-9381
FAX 03-5114-5444

ドコモ本部は、独自の社会貢献活動として、6月21～26日に「砂漠を緑に！」第14次隊の27人を中国ホルチン砂漠に派遣した。

緑化活動の取り組み (2～5日目)

中国に到着して2日目から緑化活動がスタート。まずは、緑化されていない砂漠の現状を見学し、砂漠化の原因、緑化活動の必要性についてあらためて全員で再確認した。

その後、現地で活動するNPO法人『緑化ネットワーク』が、2000年に緑化を手掛けた森を見学。これから自分たちが行なう活動が時間をかけて確実に緑化につながることを実感し、参加者の意気込みはさらに増した。

3日目からいよいよ本格的な緑化活動を開始。これまでの活動結果をふまえ、植えた木々の活着率は確実に上がっており、こうした過去の経験を生かし効率的に緑化活動を進めるため、今回は松の苗木を植林。約4m間隔に50cmほどの深さの穴を掘って苗木を植え、砂をかぶせて土を固める。慣れない作業から最初は苦戦したが、コツをつかむとお互い協力し合って600本の苗木を植えることができた。

最後は苗木の前に一列になって恒例の「バケツリレー」。隊員全員の気持ちを一つにするため、「加油(ジャージョ:頑張り)！」と声を掛け合い、バケツの手渡しを重ねるたびに一体感の高まりを感じることができた。

日々の作業後には、隊員全員で振り返りを行ない、各班の改善案や翌日の目標を共有しあって作業に臨んだ。これにより日を追うごとに全員の気持ち



が一つになり、隊の団結力も強くなっていった。

また、4～5日目には、過去の隊が植えた木々の成長を確認するとともに、今後の成長を促すため、植林した松の周りに生えた雑草を抜き、ポプラの剪定作業を実施した。緑化とは、木を植えるだけではなく、その後の維持管理も重要であることを学んだ。

緑化活動を終えて (6日目)

活動最終日には、ワークショップを行ない、自分の立場で今後どのようなことができるかを考え、お互いに共有しあった。「身近なところからできることを自らが楽しんで行なう。そして楽しかったことを身近な人に伝える」。そのことがボランティア活動を継続させる重要な要素であり、その結果が成果につながることを学んだ。

私たちは、この活動を今後につなげていくために、この6日間で体感したことを少しでも多くの人に「発信」していくことの重要性を全体で確認し、活動を締めくくった。

今後、第14次隊27人は、今回の活動で感じたことをさまざまな機会を通じて組合員の皆さんと共有していくとともに、各自ができる社会貢献活動に参画していく。

今回の第14次隊派遣には、組合員の皆さんに物品購入やカンパに多大な協力をいただいたことに心から感謝申し上げますとともに、引き続き、今後の取り組みへのご協力をお願いしたい。



2人で協力し、松を植える



植樹後の管理も重要

歴史を学ぶ (1日目)

活動初日には、瀋陽にある「9・18歴史博物館」で平和学習会を実施。中国側から見た満州事変以降の「抗日戦争」の歴史を学び、日中間の歴史認識の違いを知った。日本ではほとんど知られていない戦況資料等の展示に目を背けてしまいたくなる気持ちを抑え、これを機会にあらためて調べてみたいという意識が芽生えてきた。

現地の大学生との交流 (2～3日目)

2～3日目は、現地の大学生との交流を行なった。一緒にゲームや植林作業をするなど時間を共にすることで国境を超えて少しずつ気持ちが一つになっていくことを実感した。

また、日本語を勉強して1～2年にもかかわらず、話に熱心に耳を傾け流ちょうに日本語を話す学生の姿に非常に刺激を受けた。

Red Hurricanes

オープン戦終える



レッドハリケーンズは、6月28日にNTTコミュニケーションズと対戦し、前半は同点で折り返したものの21対35で惜敗し、オープン戦を3勝1敗の結果で終えた。

今シーズンは8月22日に開幕。組合員の皆さんの熱い応援をお願いします。



My Photo Album

Vol.183



海外旅行でリフレッシュ

▲右が投稿者の浅沼さん

私は、海外旅行が趣味で、毎年1～2回は旅行しています。

この写真は、今年の3月に同期の寺澤さんとマレーシアのクアラルンプールに行ったときのものです。

背景に写っているペトロナスツインタワーはとうもろこしをイメージして造られたようで、ライトアップがとてもキレイでした♪

群馬直轄分会 浅沼 菜緒子さん

赤坂点描

七月を迎え、上京して二年が経過した▼振り返れば、「処遇体系の見直し」「新たな雇用制度の導入」「特別手当の見直し」等、働き方や労働条件に関わる重要課題に対し労使対応を強化し、組合員と幾度も膝を突き合わせてきた▼そして議論を積み重ねてきた「事業構造の変革と再構築」は、組合員・社員の働きがいや安心・安定につながる事業基盤を確立するための「スタート」である▼今後も「変革」は続く。「新たなステージへの進化」へ、これまで以上に分会・部会・班長と連携し、組合員と膝を突き合わせていく必要がある。(OIC)